

支部だより

～第12回中国・四国支部大会～

岩楯好昭

山口大学大学院創成科学研究科

はじめに

中国四国支部は、中国地方5県（岡山，鳥取，広島，島根，山口）と，四国地方4県（徳島，香川，高知，愛媛）からなります。海は北から日本海，瀬戸内海，太平洋に面し，山も中国山地北部には大山が独立峰として富士山のように美しくそびえ立ち，四国山地には近畿以西で最高峰の石鎚山を擁しており，中国・四国支部は大変に風光明媚な土地柄です。山地や海を渡るにはいささか時間がかかるものの，美しい景色を眺めながらの移動はそれほど苦にならないためでしょうか，2019年度まで11回の支部大会を開催してきました。翌2020年には，第12回支部大会を山口で行う予定でしたが，コロナ禍のなか幻となり，1年越しの2021年の5月によりやくオンラインで開催することができました。ここでは第12回支部大会（オンライン）の様子を報告いたします。

1年間の延期

2019年度の広島での支部大会において，次回の支部大会の開催をお引き受けし，当初は翌2020年の5月に山口大学を会場として現地開催するつもりでございました。2020年の1月には支部会員の皆様に現地開催のアナウンスをしたものの，2月頃からでしょうか，新型コロナウイルス感染症の流行が急に騒がれだしまして，研究集会だけでなく，コンサートなど一般の様々な催しが中止になりはじめました。致し方なく，我々も3月には中止のアナウンスをいたしました。当時は，オンラインの催しというものに全く馴染みがなく，オンラインで支部大会を開催するという発想は夢にも思わず，1年延期という運びになりました。1年延期すれば山口での現地開催になるだろうと

思っておりましたが，2021年になってもコロナの流行は終息せず，第12回の中国・四国支部大会は2021年の5月にオンライン開催で行うことに決まりました。コロナのために，私も山口大学で1年間オンラインによる授業や会議を強制的に経験したため，1年前には夢にも思わなかったオンライン開催を当たり前のように入れられるようになりました。

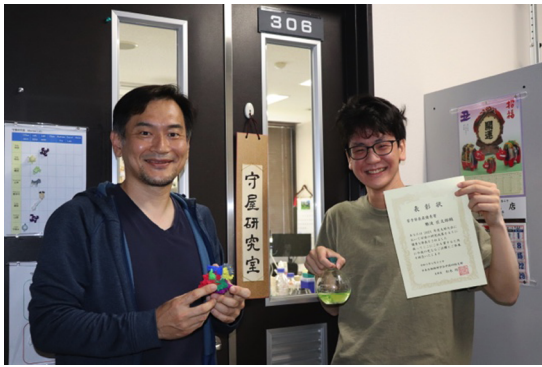
大会の開催

オンラインによる第12回中国・四国支部大会は山口大学の堀学先生と宇部高専の島袋勝弥先生と私を実行委員として準備いたしました。残念ながら懇親会は行わないことといたしました。一般口演のほか，中国・四国支部大会で例年行っている若手優秀発表賞の候補者口演は例年通り行うこととして，2021年の3月に大会ホームページを立ち上げました。これまで現地開催の支部大会は，1日目の午後から2日目の午前の2日間で行って来ました。オンラインということで今回の開催は5月22日（土）の1日間といたしました。口演申し込みをどれだけいただけるか全くわからず，現地開催の支部大会と比べてずっと少なく数件しか集まらず，実行委員が口演題目を無理してひねり出さないといけない状況になったらどうしようと不安を覚えつつ，申込みをお待ちしたところ，幸い，若手優秀発表賞候補者口演9件，一般口演17件の申し込みをいただくことができました。さらに参加者としても49名もの申込みをいただきました。現地開催の大会に比べても遜色ない，少ないどころか予想より多くの発表申し込みをいただき，一般口演の発表時間を15分から12分に短縮することになって発表者の皆様に御迷惑をおかけしてしまいました。

当日は午前9時から夕方18時半過ぎまでの長丁場です。午前中には若手優秀発表賞の候補者口演を皆さま英語で行っていただきました。口演の進行のための



第12回中国・四国支部大会 集合写真



若手最優秀発表賞 難波匠太郎さんと守屋先生（岡山大学）



若手優秀発表賞 亀田奈那さんと堀先生（山口大学）

パソコンの画面共有の切り替えも、発表者の皆様、すでにオンライン慣れしているのか、あるいは練習しておいてくださったのか、スムーズに運び、時間のロスは最小限に済みました。

昼休みにこれまたオンラインで若手発表賞の投票をしていただいた後、午後、浜松ホトニクス株式会社の晝間様による企業セミナー、一般口演、総会、と事故なく、また、おかげさまで盛況なまま行うことができました。若手最優秀発表賞は、酵母を用いて3連GFPが凝集体を作る形成機序明らかにし、その遺伝子操作技術への応用の可能性というオリジナリティの高い発表をなさった岡山大学の難波匠太郎さんが受賞されました。おめでとうございます。

同時に、若手優秀発表賞は、ゾウリムシ繊毛のラジアルスポークの複数の構成因子をロックダウンするという独創的な方法で、それらラジアルスポーク構成因子の繊毛運動に関する役割を解明した山口大学の亀田奈那さんが受賞されました。こちらもおめでとうございます。

オンライン大会を開いた感想

おかげさまで中国・四国支部大会での初めてのオンライン大会を無事終えることができました。私自身も初めてのオンライン大会の運営でした。オンラインならではのことで、どうやって行るか少々悩んだこともありましたが、現地開催のときは現場で無記名投票していた若手優秀発表賞の投票は、Google フォームを用いることで対応しました。また、口演の時間経過をお知らせするのに鳴らすベルは、試してみると、オンラインだとノイズと判断されるのか、案外マイクにのらなくて聞き取れませんでした。それで、タブレット画面にタイマー表示し、向かい合わせに置いたノートパソコンのカメラ

で写して参加者画面として表示するという原始的なアナログ方式で対応しました。

オンラインだと懇親会はもちろん、現場の道案内の表示や皆さんにお配りする名札などの細かい準備がなく、ほとんど手間がかかりません。また、参加者側からみても、交通費、宿泊費が不要です。そのため、コロナ後も、もしかしたら、ある程度オンライン方式が定着するのかもしれないかなと、オンライン支部大会を担当させていただいて、実感しました。確かに、口演を聞くだけならオンラインで良いかもしれませんが、反面、オンラインだと懇親会や口演の合間の情報交換ができません。今回も、パソコンの画面越しではありますが、久しぶりにお目にかかった方々と個別の挨拶もままなりません。個人的には学会で大切なことは実はそういうことなのではないかと思えます。是非、早くコロナが収束して、従来の現地開催の研究集会が戻ってくることを期待しております。山口大学は湯田温泉という温泉地にあります。次の山口大会はもちろん、現地で行う意欲満々です。

最後に

大会開催に至るまで支えてくださった支部会長の徳島大学松木先生、前支部会長の岡山大学須藤先生、座長を引き受けくださった岡山大学竹田先生、守屋先生、企業セミナーでお世話になった浜松ホトニクス晝間様、色々ご助言くださった前支部大会長の広島県立大学八木先生、ならびにすべての参加者の皆様に感謝申し上げます。また、一緒に大会を運営し、様々な準備に尽力くださった山口大学堀先生、オンライン運営に様々なご助言をくださった宇部高専島袋先生、当日の進行を行ってくださった山口大学沖村さんにも重ねて感謝申し上げます。